

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 関市立旭ヶ丘中学校における実践

<授業実践>

①授業実践に向けての構え

- ・4領域を関連させたバランスのよい指導を心がけつつ、正確に書く力、要点を読み取る力を付けることを大切にして指導する。
- ・単元全体、及び単位時間における「ねらい→課題→学習活動→評価（規準）」の一貫性を高めることにより日々の授業を充実させる。
- ・Pre-, While-, Post- の流れを意識して、1単位時間の指導過程を工夫する。
- ・基礎的・基本的内容の定着を図るため、付けたい力を明確にし、言語活動や学習形態を工夫する。

②第1回授業交流研究会

【日時】平成16年6月17日（木）

【公開授業】

- ・単元名：Unit 2 Yumi Goes Abroad
- ・授業学校・学級：関市立旭ヶ丘中学校 2年4組（習熟度別少人数クラス）
- ・主な提案内容： ①言語材料定着を目指したパターンプラクティスと対話活動
②伝えたい内容を明確にし、正しく伝えるために強調して話す活動



【授業研究会】（成果○ 課題△）

○教師が評価規準を明確にもち、生徒に相互評価の視点をはっきりと示すことで、目指す姿を意識させたことにより、活動1→中間反省→活動2の流れの中で、話す英語の質が高まった。

△ねらいの明確化、及びねらいの実現に向けて、活動の設定→把握→指導→評価という指導の流れの一貫性を高める必要がある。

③第2回授業交流研究会

【日時】平成16年11月5日（金）

【公開授業】

- ・単元名：Unit 5 Video Games For or Against ?
- ・授業学校・学級：関市立旭ヶ丘中学校 3年4組（習熟度別少人数クラス）
- ・主な提案内容： ①相手の意見に反応する表現に習熟するための効果的な Warm up
②Pre-, While-, Post-reading の流れを踏まえた指導過程
③コミュニケーション活動を活発にするための十分な討論時間の確保
④多様な表現の使用や、正確に書くことの足場となる板書や掲示物の工夫



生徒の対話 (発展) A: I agree with ALT1. I think a school uniform is good, because we all wear the same uniform. I don't have to buy my own clothes so much.

B: I disagree with A-kun. I know what you mean, but I want to be fashionable.

C: Oh, yes! I agree with B-san because I enjoy changing my T-shirts every day.

D: I disagree. In my opinion, a school uniform isn't expensive. ……

【授業研究会】（成果○ 課題△）

○Pre-reading で、相手の意見に反対意見を述べる練習を行うことにより、本時定着させたい表現を意識して使う姿や、即時的に自分の意見を話そうとする積極的な姿が見られた。

○Pre[Warm-up, Activating]→While[Skimming, Scanning]→Post[Communication, Writing]の指導過程が、生徒の自然な思考の流れに合致し、生徒がテーマを理解し、討論をスムーズに行うことができた。

○「班での討論→中間一斉指導→全体での討論→書きまとめ」という段階を設定したことにより、一人一人に話す機会が確保され、テーマに対する意見に内容的な深まりや広がりが見られた。
△教師が活動状況を把握し、指導後に生徒が再挑戦する場を設けたい。活動中は話す内容や内容が伝わることを重視するが、活動後に教師が有効な表現の価値付けや、文法的な誤りの指摘をし、生徒が使用した表現を見直す機会をもつことにより、より確かな表現を定着させたい。
△どんな力を付けたいかによって、活動設定を考える必要がある。話す力を付けたい時、書かなくても頭の中で英文を考えて話す活動をくり返し行っていきたい。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

「話すこと」のポイントが高い。面接官から、生徒の素直な反応や英語で伝えようとする意欲が高く評価された。これは「話すこと」に重点をおいて指導してきた成果の表れと考える。スターターズでは、「読む・書く・聞く」のポイントが昨年度より向上した。昨年の研究成果をもとに、正確な理解（読む・聞く）と正確な表現（書く）を意識して指導してきた成果の表れと考える。しかし、「読むこと」「書くこと」は「話すこと」のポイントまでは至っていない。そこで、今後は「話す活動をするために内容を正しく読み取る」「話したことをもとに、正しく書く」ことの精度を上げる等、4領域を関連させた指導を意識したい。このことは、高等学校が期待する付けたい力と一致する。

<学習環境の充実>

①外国人講師による英会話指導【選択英語3年生】

・岐阜市の小学校で英語指導の実績のある女性に依頼し、ゲームや絵を用いてコミュニケーションを図る活動を行った。既習表現を駆使して、言い換えたり説明したりすることで、適切に表現する力が高まった。また、英検の面接練習を行い、生徒は読んだ英文について即時的に応答する練習を、緊張感をもちながら効果的にすることができた。

②映像資料（映画のDVD等）を使った英語学習【選択英語3年生】

・生徒の興味・関心に即した映画を見た後、その一場面を取り上げ、使われている英語表現を調べたり、聞き取りや書き取りの練習をしたりした。映画の臨場感や迫力に触れ、豊かな感性が養われるとともに、英語のシャワーを浴びることにより、英語を聞くことに耳がだんだん慣れてきた。字幕から英語を類推したり、対話の前後関係から意味を類推したりすることができるようになった。

<成果と課題>

○聞くこと、話すことを中心にしながら、正しく書くこと、読み取ることとの関連を図りながら指導するようになった。その成果として、1年生は自己紹介や他者紹介の英文の充実、2年生はテーマに対しての意見文の質的・量的向上、3年生は人物レポートの質的・量的向上が見られた。

○付けたい力を明確にし、その実現に向けて単元指導計画、単位時間の指導過程（Pre-, While-, Post-）や形態（ペア、小集団、習熟度別少人数）を工夫したことにより、学習への意欲が高まった。

△英文を即時的に考えて話す力を付けるために、パターンプラクティスだけではなく、必然性のある課題解決的な活動を何度も繰り返し経験させる必要がある。また、その活動後の振り返りや再指導により、確かな英語表現を定着させていくことが必要である。

△正確さは弱いが発想が豊かな生徒、相手の意向を理解し素早く応答できる生徒等、生徒の多様性を生かし、習熟度別少人数学習と一斉学習の効果的な運用をする等して、学習活動の活性化を図る。

■ 来年度以降の授業づくりについて

- ・教科部会を充実させ、校内及び中高の教員同士のコミュニケーションを図り、教科の財産（指導方法、教材教具の工夫）を共有することにより、生徒の英語力向上につなげたい。
- ・基礎的・基本的な内容の定着を図ることに常に立ち戻り、主体的に学ぶ力を付けるための個に応

じたきめ細かな指導をさらに工夫する必要がある。